

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 福岡財務支局長

**【提出日】** 平成25年2月13日

**【四半期会計期間】** 第41期第3四半期(自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)

**【会社名】** イフジ産業株式会社

**【英訳名】** Ifuji Sangyo Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 藤井 徳夫

**【本店の所在の場所】** 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原200番地の1

**【電話番号】** 092-938-4561 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務部長 原 敬

**【最寄りの連絡場所】** 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原200番地の1

**【電話番号】** 092-938-4561 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務部長 原 敬

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (千円)	8,333,201	7,949,399	10,807,931
経常利益 (千円)	637,637	668,997	817,918
四半期(当期)純利益 (千円)	320,641	435,579	433,566
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	318,177	438,066	448,303
純資産額 (千円)	3,233,932	3,624,348	3,364,078
総資産額 (千円)	8,226,772	8,253,389	7,873,331
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	57.71	78.40	78.03
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	39.3	43.9	42.7

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	30.93	39.05

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

なお、当第3四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に国内景気は緩やかに回復の気配がみられるものの、欧州の債務危機問題や米国の「財政の崖」の問題による海外経済の減速懸念等により、不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、雇用情勢・所得の低迷により消費者の生活防衛意識が強く、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、鶏卵関連事業において前第3四半期連結累計期間に比べ鶏卵相場が低く推移したこと、また、調味料関連事業において、東日本大震災の影響で前第3四半期連結累計期間に増加したカップめんや即席めんの需要が、当第3四半期連結累計期間では落ち着いた影響等により、前年同期比4.6%減の7,949百万円となりました。

損益面につきましては、主に鶏卵関連事業において、東日本大震災で関東工場が被災した影響が当第3四半期連結累計期間ではなかったことや、販売数量が前年同期に比べ増加したこと等により、営業利益は同2.0%増の638百万円、経常利益は同4.9%増の668百万円となりました。また、鶏卵関連事業において、本社土地の一部売却に伴う固定資産売却益143百万円を特別利益に計上したこと及び土地の減損損失79百万円を特別損失に計上したこと等により、四半期純利益は同35.8%増の435百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 鶏卵関連事業

当セグメントにおきましては、販売価格及び原料仕入価格が相場に連動して変動するものが多く、鶏卵相場が高く推移した場合は売上高、仕入高ともに増加し、低く推移した場合は売上高、仕入高ともに減少する傾向にあるため、販売価格と仕入価格の差益を一定にする努力をしております。

売上高につきましては、販売数量が前年同期比3.8%増加したものの、鶏卵相場(東京M基準値)の平均(4~12月)が前年同期間に比べ6.1%(約12円)低く推移したことから、鶏卵相場に連動する液卵の販売単価も低くなり、液卵売上高は前年同期比3.9%減の6,586百万円となりました。また加工品売上高は同0.7%減の340百万円、その他売上高は同14.4%減の147百万円となりました。この結果、合計売上高は同4.0%減の7,074百万円となりました。

損益面につきましては、鶏卵相場の低下に伴い販売単価が低下し売上高は減少したものの、仕入単価も低下したことにより売上原価が減少し差益を維持できたこと、また販売数量が増加したこと、さらに東日本大震災で被災した関東工場が全面復旧し、震災の影響がなくなったこと等により、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益(営業利益)は前年同期比6.8%増の570百万円となりました。

#### 調味料関連事業

当セグメントにおきましては、新商品の販売は伸びたものの、前年の東日本大震災によるカップめんや即席めんの需要増が当第3四半期連結累計期間では落ち着いたことや、既存商品の販売が減少したことから、主力製品である顆粒や粉末調味料の販売が減少し、売上高は前年同期比9.7%減の859百万円となりました。

損益面につきましては、コストの削減及び生産効率の向上に努めたものの、売上高の減少の影響が大きく、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益(営業利益)は前年同期比29.8%減の58百万円となりました。

#### その他

当セグメントにおきましては、不動産賃貸業及び太陽光発電事業であり、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比0.2%減の14百万円、セグメント利益(営業利益)は同12.5%増の8百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は8,253百万円となり、前連結会計年度末に比べて380百万円増加しました。

流動資産は4,442百万円となり前連結会計年度末に比べ592百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の増加604百万円、受取手形及び売掛金の増加386百万円、商品及び製品の減少237百万円、原材料及び貯蔵品の減少116百万円等によるものであります。

固定資産は3,810百万円となり前連結会計年度末に比べ212百万円減少しました。主な要因は、土地の減少183百万円、建物及び構築物の減少67百万円等によるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は4,629百万円となり、前連結会計年度末に比べて119百万円増加しました。

流動負債は2,693百万円となり前連結会計年度末に比べ194百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加187百万円、支払手形及び買掛金の増加117百万円、未払法人税等の減少101百万円、災害損失引当金の減少61百万円等によるものであります。

固定負債は1,936百万円となり前連結会計年度末に比べ75百万円減少しました。主な要因は、長期借入金の減少86百万円等によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は3,624百万円となり、前連結会計年度末に比べて260百万円増加しました。主な要因は、四半期純利益の計上435百万円及び剰余金の配当177百万円等により利益剰余金が257百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の42.7%から43.9%となりました。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は98百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,792,000
計	16,792,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,563,580	5,563,580	東京証券取引所 市場第二部 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	5,563,580	5,563,580		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		5,563,580		455,850		366,322

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,550,900	55,509	
単元未満株式	普通株式 5,280		
発行済株式総数	5,563,580		
総株主の議決権		55,509	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式27株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) イフジ産業株式会社	福岡県糟屋郡粕屋町 大字戸原200番地の1	7,400		7,400	0.13
計		7,400		7,400	0.13

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,045,947	1,649,986
受取手形及び売掛金	1,713,018	2,099,129
商品及び製品	683,821	446,177
仕掛品	35,317	31,651
原材料及び貯蔵品	271,448	155,059
繰延税金資産	73,908	47,167
その他	41,312	27,326
貸倒引当金	14,876	13,725
流動資産合計	3,849,897	4,442,773
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,204,707	1,136,719
機械装置及び運搬具（純額）	360,749	343,524
土地	2,212,829	2,029,731
その他（純額）	16,677	50,459
有形固定資産合計	3,794,964	3,560,435
無形固定資産	15,689	11,954
投資その他の資産		
投資有価証券	40,318	45,479
繰延税金資産	142,650	168,864
その他	59,284	36,956
貸倒引当金	29,473	13,074
投資その他の資産合計	212,779	238,226
固定資産合計	4,023,433	3,810,616
資産合計	7,873,331	8,253,389

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	633,616	751,557
短期借入金	1,029,582	1,216,672
未払法人税等	258,178	156,843
未払消費税等	10,888	52,600
賞与引当金	64,164	31,539
役員賞与引当金	-	17,812
災害損失引当金	61,325	-
その他	440,388	465,980
流動負債合計	2,498,142	2,693,005
固定負債		
長期借入金	1,366,462	1,279,858
役員退職慰労引当金	527,735	557,360
負ののれん	66,623	48,453
繰延税金負債	28,809	28,809
その他	21,479	21,554
固定負債合計	2,011,109	1,936,035
負債合計	4,509,252	4,629,040
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,850	455,850
資本剰余金	366,322	366,322
利益剰余金	2,549,838	2,807,620
自己株式	4,335	4,335
株主資本合計	3,367,674	3,625,457
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,595	1,108
その他の包括利益累計額合計	3,595	1,108
純資産合計	3,364,078	3,624,348
負債純資産合計	7,873,331	8,253,389

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	8,333,201	7,949,399
売上原価	6,606,594	6,193,378
売上総利益	1,726,606	1,756,020
販売費及び一般管理費	1,100,826	1,117,726
営業利益	625,780	638,294
営業外収益		
受取利息	87	138
受取配当金	641	704
受取保険金	-	11,810
受取賃貸料	3,471	4,532
負ののれん償却額	18,169	18,169
その他	10,536	11,682
営業外収益合計	32,907	47,037
営業外費用		
支払利息	21,050	16,335
その他	0	-
営業外費用合計	21,050	16,335
経常利益	637,637	668,997
特別利益		
固定資産売却益	-	143,333
災害損失引当金戻入額	-	8,970
特別利益合計	-	152,303
特別損失		
固定資産除売却損	44	60
減損損失	-	79,120
災害による損失	57,670	-
特別損失合計	57,714	79,180
税金等調整前四半期純利益	579,922	742,120
法人税、住民税及び事業税	222,711	306,843
法人税等調整額	36,570	302
法人税等合計	259,281	306,540
少数株主損益調整前四半期純利益	320,641	435,579
少数株主利益	-	-
四半期純利益	320,641	435,579

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	320,641	435,579
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2,463	2,487
その他の包括利益合計	2,463	2,487
四半期包括利益	318,177	438,066
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	318,177	438,066
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,222千円増加しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。  
 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	52,209千円	33,565千円
支払手形	20,621千円	15,701千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	192,856千円	160,000千円
負ののれんの償却額	18,169千円	18,169千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	100,011	18	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	122,235	22	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金
平成24年11月12日 取締役会	普通株式	55,561	10	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,365,957	952,458	8,318,416	14,785	8,333,201
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	7,365,957	952,458	8,318,416	14,785	8,333,201
セグメント利益	534,140	83,843	617,984	7,796	625,780

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	617,984
「その他」の区分の利益	7,796
四半期連結損益計算書の営業利益	625,780

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,074,894	859,746	7,934,641	14,758	7,949,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	7,074,894	859,746	7,934,641	14,758	7,949,399
セグメント利益	570,708	58,817	629,526	8,767	638,294

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	629,526
「その他」の区分の利益	8,767
四半期連結損益計算書の営業利益	638,294

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「鶏卵関連事業」のセグメント利益が2,157千円増加し、「調味料関連事業」のセグメント利益が65千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「鶏卵関連事業」セグメントにおいて、土地の一部売却に伴い、本社の土地の一部について売却予定資産として資産のグルーピングの見直しを行い、回収可能価額まで減額し、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、79,120千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	57円71銭	78円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	320,641	435,579
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	320,641	435,579
普通株式の期中平均株式数(株)	5,556,142	5,556,153

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第41期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）中間配当について、平成24年11月12日開催の取締役会において、平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	55,561千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年12月10日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 2月12日

イフジ産業株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 久留和夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只隈洋一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイフジ産業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イフジ産業株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。